

17. 施設及び配置図

Facilities and Campus Map

1 土地 Site

総面積	Entire Site	95,558㎡	寄宿舎敷地	Dormitory	9,752㎡
校舎敷地	School Building	44,916㎡	屋外運動場	Outdoor Ground	40,890㎡

2 建物 Building

校舎及び付属建物 School Building

The encircled numbers ① to ⑳ correspond to those on the campus map on page 40.

名称	構造	延面積	名称	構造	延面積
管理・一般科目棟 ①	R3	4,302㎡	プール付属室	B1	60㎡
講義棟 ②	R4	1,573	守衛所	R1	16
電気情報工学科棟 ③	R3	1,899	車庫	R1	71
物質工学科棟 ④	R3	2,253	バス車庫	R1	60
建築学科棟 ⑤	R3	1,373	ボイラー室	R1	177
機械工学科棟 ⑥	R3	1,853	物品倉庫	R1	102
電子制御工学科棟 ⑦	R3	2,243	ポンプ室	B1	7
専攻科棟 ⑧	R3・S3	1,234	薬品室	R1・B1	51
ものづくりセンター ⑨	S1	760	ガスボンベ室	B1	13
図書館情報センター ⑩			職員集会所	W1・B1	340
(図書館)	R2	1,585	屋外便所	B1	10
(情報教育施設)	R1	484	シャワールーム	B1	7
福利施設 ⑪	R2	985	体育更衣室	B1	77
第一体育館 ⑬	S1	1,198	材料倉庫	S1・B1	52
第二体育館 ⑭	S1	883	排水処理機械室	R1	23
武道場 ⑮	S1	395	普通教室	R3	687
流体実験室	S1	80	器具庫	S1	19
高電圧実験室	R1	101	計		24,973

学生寮 Dormitory ⑫

名称	構造	延面積	名称	構造	延面積
学生寮管理棟	R1	149㎡	浴	R1	170㎡
男子寮(西)	R3	1,381	渡り廊下	S1	400
男子寮(東)	R3	326	洗	B1	20
男子寮(南)	R4	2,034	ボイラー室	B1	14
女子寮(A)	R4	738			
女子寮(B)	R3	913			
食堂	R1	474	計		6,619

3 その他の施設 Other Facilities

プール⑯	鋼製25m	7コース	陸上競技場⑰	400m	7コース
			(サッカー場)		6,700㎡
野球場⑱		9,194㎡	テニスコート⑱		4,520㎡

4 建物配置図 Campus Map



①	Administration Office & General Education Building	⑪	Welfare Facilities
②	Lecture Building	⑫	Dormitory
③	Electrical Engineering Building	⑬	Gymnasium 1
④	Materials Science Building	⑭	Gymnasium 2
⑤	Architecture Building	⑮	Gym for Martial Arts
⑥	Mechanical Engineering Building	⑯	Swimming Pool
⑦	Electronic Control Engineering Building	⑰	Baseball Ground
⑧	Advanced Engineering Course Building	⑱	Track & Field
⑨	Workshop Center		Tennis Court
⑩	Library and Information Center (Library), (Computer Center)		



校舎全面リニューアル完了!



管理棟玄関—図書館間に大屋根を設置

After

米子発「新・高専スタイル」

～未来教育型空間の構築～

米子高専では、平成14年度に校舎の全面改修工事を行いました。また、平成13年度には低学年用の講義棟を新たに設置しました。これらは、教育環境の見直しと共に、魅力ある学校への変革を目指すものです。改修は以下に挙げる教育環境改善の計画主旨に基づき行いました。

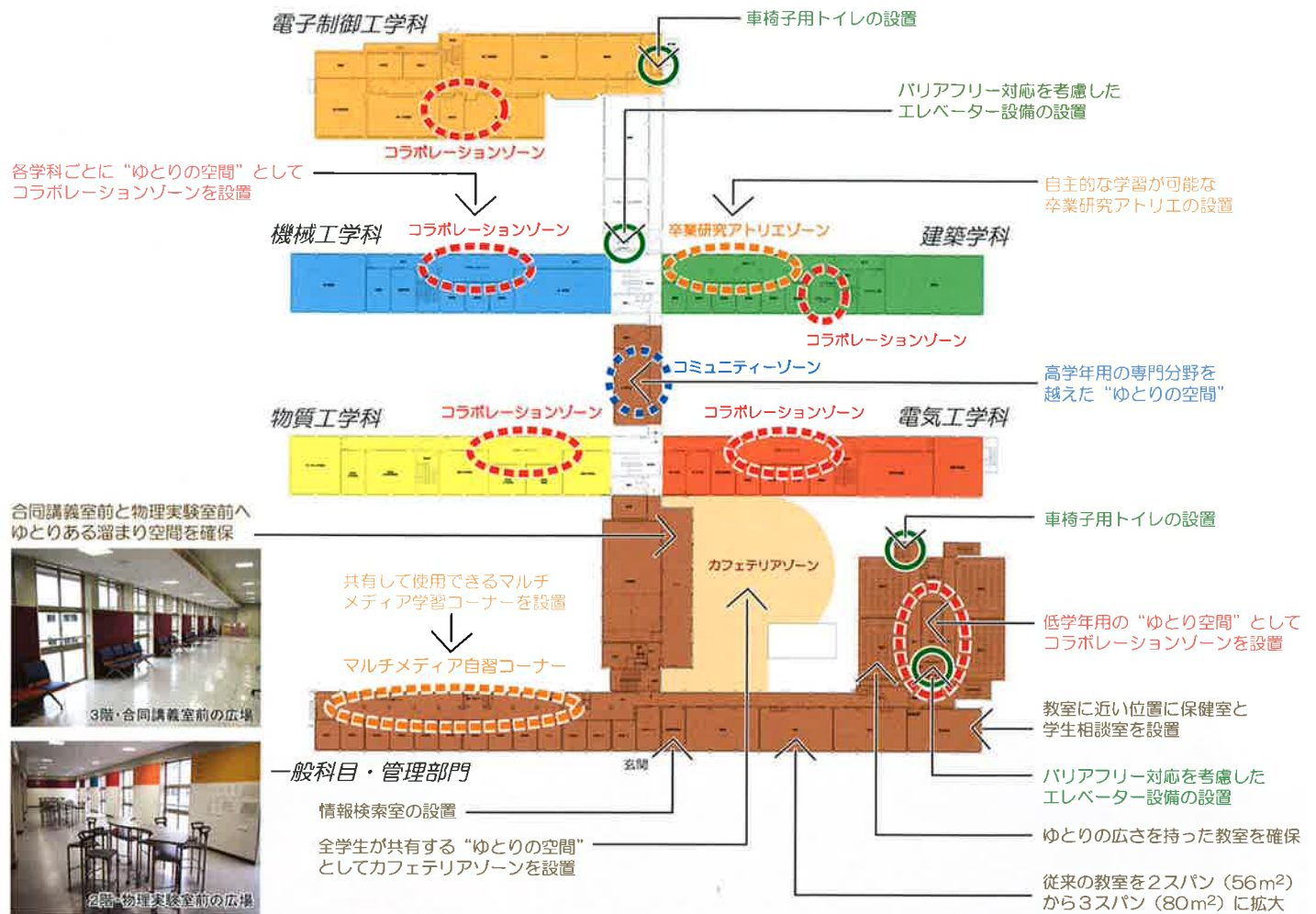


Before

- ① ホームルーム教室等をより広く**
 - ・低学年（1～3年）用教室を56㎡から80㎡へ
 - ・高学年（4～5年）は固定教室を廃止してフレキシブルな授業形態を採用
- ② 国際化・情報化に対応する学生を育てるスペースの確保**
 - ・学生の自主的発想を育む製作工房の設置
 - ・学生が容易に利用できる情報検索室の設置
- ③ 卒業研究等のためのスペースの確保**
 - ・学生が自発的に、自由に使える卒業研究室や卒業研究アトリエの設置
 - ・級友と相談しながら学習が行える自習コーナーの設置
- ④ “ゆとり空間”の創出**
 - ・コラボレーションゾーン、コミュニティーゾーン、カフェテリアゾーンの整備
- ⑤ 耐震補強による建物安全性の確保**
 - ・外付けブレースによる補強、柱への炭素繊維巻補強
- ⑥ バリアフリー対応の整備**
 - ・車椅子対応エレベーター、車椅子用トイレ、外部スロープの設置
- ⑦ 冷暖房の完備**
 - ・全棟に環境にやさしく、経済的にも優れた蓄熱式空調システム（エコ・アイス）によるエアコンを導入

主要改善内容

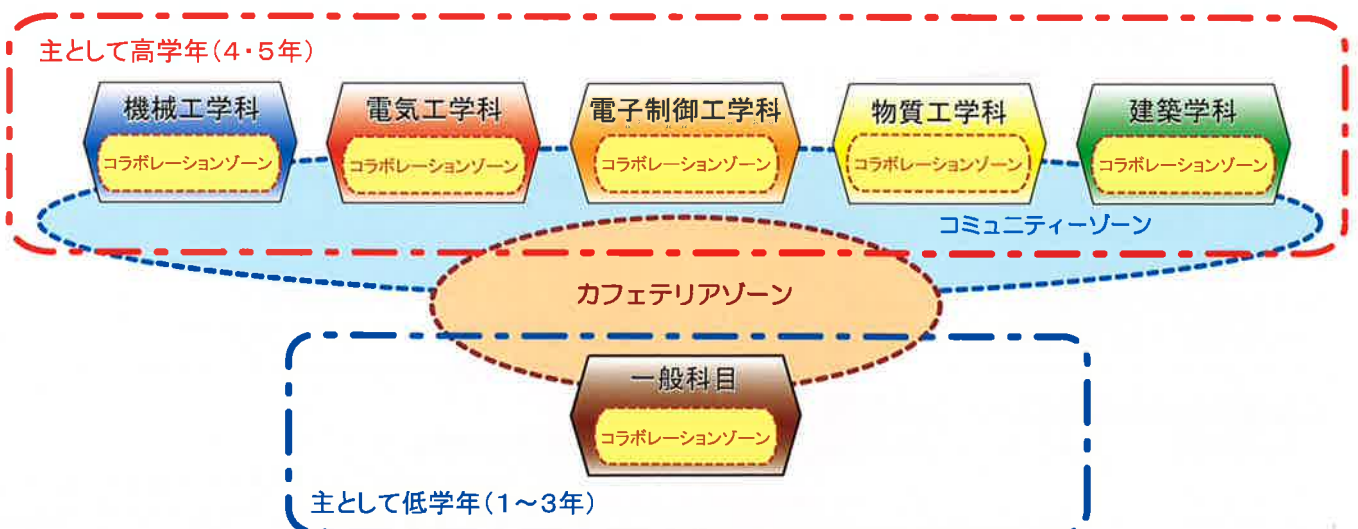
特徴的な改修点を下図に示します。各学科にイメージカラーを定めて、ゾーニングの明確化を行い、ゆとり空間を創出しました。



“ゆとり空間”の創出

限られた校内のスペースを最大限に利用して、有意義な“ゆとり空間”を創出するために、下図に示したコンセプトに基づき、空間構成を明確化しました。

- ◎ 高学年用のゆとり空間として各学科内にコラボレーションゾーンを設け、学科を越えたコミュニケーションを図るためにコミュニティゾーンを設置しました。
- ◎ 低学年用のゆとり空間としては、新講義棟2階にコラボレーションゾーンを設けました。
- ◎ さらに学年、学科を越えた全学学生が利用しやすいコミュニケーションの場として、カフェテリアを設置しました。

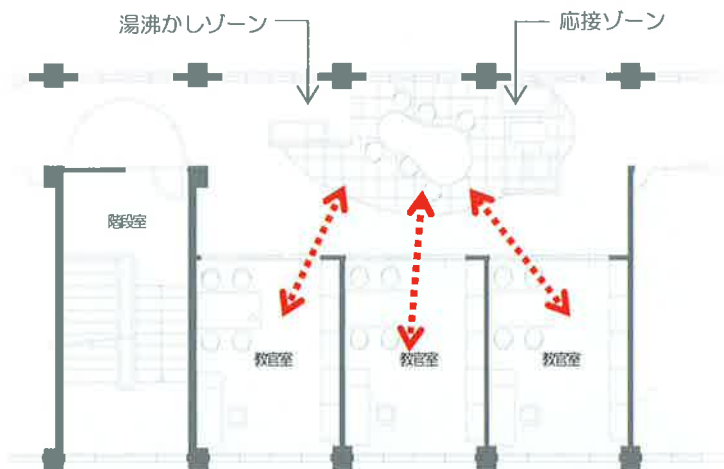


コラボレーションゾーンの設置

従来の学校環境になかった、学生の休憩、リフレッシュ空間を“コラボレーションゾーン”として、各学科および低学年講義棟へ設置しました。学生どうしのコミュニケーション向上や新しい発想の創出、問題解決へ向けた活動の場として活用してもらうための空間です。気軽に立ち寄れるよう、開放的なつくりとなっています。

また、教室と隣接しており、教官と学生のディスカッションの場としても利用できる構成としました。

壁面の一部には学科カラーを採用し、家具についても、やさらかさを感じさせる木目調のものを配置して、建築的な空間づくりとの調和を図っています。



学科の枠を越えたコミュニケーション

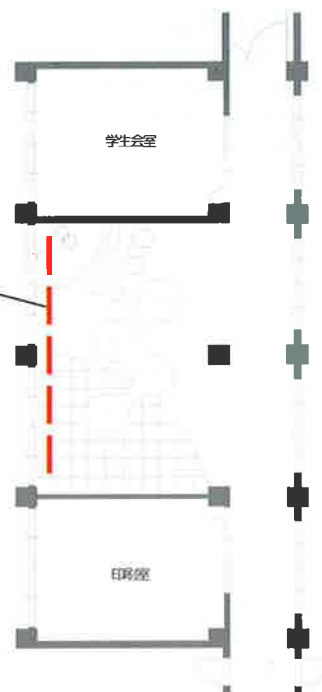
コミュニティーゾーンの設置

学生どうしが学科の枠を越えて、専門分野内に偏らない幅広い情報の交換が行える場所として、コミュニティーゾーンを設置しました。学生会室にも隣接しており、学生の活発な活動拠点となります。

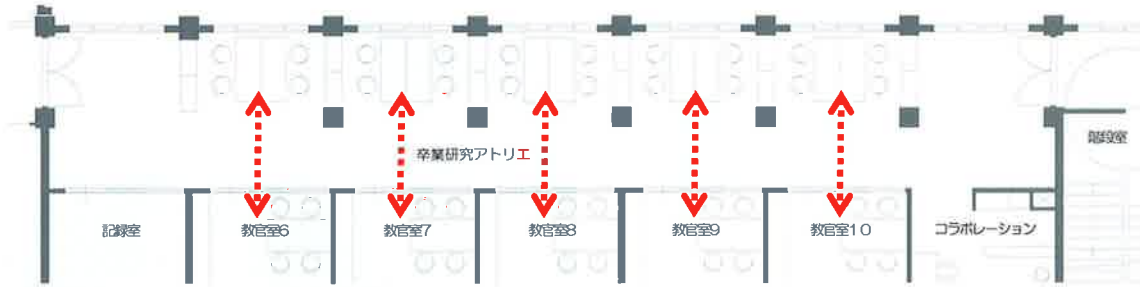
廊下を取り込んだ開放的な一体空間を形成して、休憩時間や下校時間に気軽に立ち寄ることができる構成としました。



自然採光を取り入れながら、校舎内の空間との違いを明確にし、コミュニティーゾーンの位置づけを明確にすると共に、各学科を象徴する壁を設けた。



卒業研究アトリエ（建築学科）とマルチメディア自習コーナーの設置



コラボレーションゾーンと同様に教室とのつながりを重視し、閉鎖機能と開放機能の両面の機能を持つブラインド内蔵のガラスパーティションで構成しました。ブラインドを閉じると、卒業研究アトリエと教室はそれぞれが独立した空間となり、学生と教官はそれぞれの活動に集中できます。また、ブラインドを開けると、これらの空間は一体化し、教官と学生のディスカッションなどが容易となる空間が形成できます。

他の研究グループとも隣接しており、グループ間の動きも感じられる開放的な構成としました。



ブラインド内蔵パーティション



全学学生・教職員のコミュニケーション

カフェテリアゾーンの設置

低学年講義棟横の売店周りの空間に、全学学生及び教職員共通の“ゆとりの空間”として、カフェテリアゾーンを設置しました。将来の実践的技術者としての秘められた可能性を“卵型”のモチーフにより表現しました。

床面はペットボトルのプラスチック廃材を再利用した、木目調「エコマウッド」によるデッキで構成されています。校舎と中庭、さらに売店の様々な高低差を解消して、バリアフリー対応を行うことで、機能と空間演出の両面をカバーしています。



低学年用新講義棟

校舎全面改修に先がけ、平成13年度末に4階建て、12教室の低学年（1～3年生）用新講義棟が完成しました。従来の教室は、床面積が56㎡と狭く、学生机を入れると余裕が全くありませんでしたが、新教室は80㎡の広々とした空間となり、のびのびとした雰囲気です。授業が行えるようになりました。各教室にはエアコンが設置されており、真夏でも快適に過ごすことができます。また、エレベーターやスロープの設置など、バリアフリーへの対応も行いました。

新講義棟内部の2～4階は吹き抜けとなっており、天井からは自然光を取り入れて、開けた空間を演出しています。2階には低学年学生間のクラスの枠を越えたコミュニケーションの場として利用できる、コラボレーションゾーンを設置しました。



低学年用新講義棟外観



広がった新教室



Before



吹き抜けと2階コラボレーションゾーン

● 壁面デザインについて

新講義棟内部の壁面については、本校建築学科全学年を対象に色彩デザインを募集し、4年生（提案当時）によるデザインを採用しました。“「普通だ」と思われたくない”を主コンセプトとし、今までの退屈でおとなしい講義棟の雰囲気から脱したデザインとなっています。

本校の校名の頭文字「YNCT」を流動的なカモフラージュ風にデザインしたものが、吹き抜け空間を囲む柱・壁に描かれています。明るいショッキンググリーンを用いることで、より刺激的で、見る角度によって様々な表情を現す空間を創ることを狙いました。

